2023 年 11 月 2 日（木）

北京市教育視察に参加して（2）

現在の中国の教育制度は、ほぼ日本と同じ 6-3-3 制で、その上に大学があります。全国に 2759 の大学があり、大学を含めた高等教育機関への進学率は 57.8 %となっています。中国では、日本の大学入試共通テストに当たる「高考（ガオカオ）」があり、毎年 6 月上旬に実施されます。2023 年の受験者数は過去最高の 1291 万人でした。

ただ、受験生はレベルの高い大学（例えば 211 大学や 985 大学という名で括られる難関大学など）への進学をめざし受験競争は年々過熱して来ました。これに対し、政府当局は異常な受験競争の阻止と公平化の進展、保護者への負担軽減などを目途に、2021 年には大きく方針転換（「双減シュアンジエン」という）を図りました。併せて 2014 年頃から教員の給与増大を含む待遇改善、大学院（特に Ph.D.取得者）修了者を優遇するなど教育の質的向上を目指しています。また、家庭教師の禁止、予備校産業の規制強化策などを次々と対策実施しています。町中の書店をのぞいてみると、書棚からは「高考」対策問題集がなくなっており驚きました。
さらには、小学校 1･2 年では宿題禁止など、各段階における宿題負担についても当局によって大きな制限がなされているそうです。

こうした制度変更と連動して、高校教育ではいわゆる暗記重視の「詰め込み型」教育を廃し、生徒の創造性や主体性を重視する授業に切り替えが行われています。今回、訪問したすべての学校において、教育理念として「芸術」と「科学技術」「体育（健康）」の重視が掲げられおり、毎週火曜日に希望する生徒たちが興味関心･能力に応じて主体的に取り組む「サークル活動（部活動に類似）」 が重視されされています。この点、STEAM 型教育に類似しているとの印象を持ちました。特に「芸術」活動による創造力･個性化の育成が学力の発展や先進的な科学技術を生み出す原動力となり、個々の能力の進展に寄与するとしていることが分かりました。今回訪問したどの高校でも、墨絵や伝統的民族楽器の演奏など「芸術」の授業、ロボットやドローン、3D プリンターなどを使った「先端技術」の授業の紹介がありました。いずれ詳述しますが、今回の視察で訪問した 5 つの高校の概要については、別添えの資料 2 をご覧下さい。

ところで、私が個人旅行で初めて北京の公立中学校を訪問したのは 1998 年のこと。当時のいわゆる進学校と言われる高校では、大学受験に向けて毎夜 9 時ぐらいまで居残って補講を実施していました。1 教室に 50 人強の生徒が入り、やや薄暗い蛍光灯の下で黙々と問題集に取り組んでいる姿が目に焼き付いています。しかし、今では暗記重視から創造力･主体性重視の学びへと様相は一新されています。月～金曜日まで、一日 40 分授業がほぼ 10 時間実施され、16 時頃には下校しています。ただ、交流会で出会った清華大学の 2 年生の言によると、高校時代は受験勉強が大変で大学生になってやっと時間に余裕ができたと語っていました。

（つづく）

資料 2：訪問校一覧

校長　石飛　一吉